

重装備へ道探る外語大

外国語大学が抜本的な体制転換を迫られている。かつて語学のたんなる人材を各分野に輩出してユニークな存在だった外語大だが、国際化の進展につれて逆に語学だけでは、ということになり、重武装への道を探らざるを得なくなった。各大学とも学内に委員会を設けるなどして検討を進めているが、今のところ決め手は見つかっていないようだ。論説委員 今井啓一

よらだ。これまでも専攻語の国についての各種講座はあったが、同じ言語の文化圏を総合的にとらえるという視点はなく、限られた地域の知識にとどまるきらいがあった。これを地域研究に広げたいという国際社会全体の中心の位置づけを考える糸口にしたいという。

このままでは外語大の存在意義を問われることになりかねないといった問題意識は各大学内に部にかなり以前からあった。大阪外大は(昭和二十四年に)新制大学になってから今日まで、以前の三年制の専門学校並時と体制は変わっていないといふ反省から、四十七・五十六年の十年間にわたって「大学改革構想を学内で検討し続けた。しかし具体的な動きにつながらず、このほど改めて山田善郎学長を中心にプロジェクトチームを作り、むしろ一年をメドに検討することになっている。

このほか東京外大の改革案の中で「各地域の言語、知識、体験を三本柱とし、これを達成するために留学、研修旅行をする(英米独などとは別の)少数言語(モンゴル語、ベトナム語、ヒンディー語など)専攻学生にも英語教育を充実する(入学時の専攻学科決定の動機にあまりない面も見受けられるため)」、入学後一定期間のオリエンテーションを経て専攻語を決める一などを提言している。また語学単位に分けている現行の

海外大学と交流計画は、外大の教育・研究の中身をもっと多様化しなければ大学の発展はありえないという考えが強く働いている。もともと、外語大は外国語に強い人材を養成することを目標に設立され、三十年代ごろまではその機能を充ちてきた。言葉を覚えること

教育面とは別に、東京外大は国際学術交流センターの役割を果たしたいとの意向から、さる十一月の三日間東アジアの儒教圏と経済発展をテーマにした研究会を開いたのをはじめ、十一月には南米から九人の地域研究者を招き、国内の学者を交えて「地域研究と語学」というテーマで国際シンポジウムを開く。さらに中国の大学と共同研究も予定しているとい

教育

地域研究や国際関係 生き残りかけるが決め手欠く

することを目指して設立され、三十年代ごろまではその機能を充ちてきた。言葉を覚えること

教育面とは別に、東京外大は国際学術交流センターの役割を果たしたいとの意向から、さる十一月の三日間東アジアの儒教圏と経済発展をテーマにした研究会を開いたのをはじめ、十一月には南米から九人の地域研究者を招き、国内の学者を交えて「地域研究と語学」というテーマで国際シンポジウムを開く。さらに中国の大学と共同研究も予定しているとい

高い失業率に悩む欧州諸国。とりわけ若年失業者の増大が各国共通の傾向だ。当然のことながら、手に職のない若者ほど仕事にあふれる。

世界を学ぶ

ヤングはこのことを十分承知している。時には放浪後、製図の実習に取り組み風景も見られる。(パリ郊外の職業高校で)



大阪外大は七、八年前から国際関係学科の新設を文部省に申請し続けてきた。外語大が単に言語や限られた地域の教育をするだけでなく、広い視野から国際関係をとらえ豊かな国際感覚を養成するというねらいだ。五

十六年まで続いた改革構想作りの方向を探ってはいらぬものの、でも同学科新設が目玉だった。ところが具体的な

「言語と平和」という講座名で、国際経済・政治を教えるとして、半面、同大としては将来も実学に力点を置くという建前から二年前に同時通訳実習室を導入、五つのコースで学生たちが同時通訳の訓練に取り組ん

夏休み、教養の楽しい学習がなされた子供たちは個別の学習を続けている。その中で、個別の学習の典型はOAIである。身のまわりにコンピュータ

算数嫌いのカルテ

最近では様々なところで研究が進められているが、経験豊富な教師が集まって、時間をかけて吟味しながら作られるべきものである。そうでない教室の授業に匹敵するものではない。

思いさまざま、いよいよ夏休み

学に入学した。第一志望校ではなかったが、浪人などしているよりは、この考えからである。私立ではあるけれど、専門の知識、技術を身につけておけば、就職にも文系よりは強いと、ひそかに期するところもあった。ただ、年額二百万円を越す授業料や月々の生活費が心配であったが、二月月余もある夏休みを働けばなんとかなる、との先輩の言を聞いて、一海の家と契約した。

そして、七月に入ったらアルバイトと思っていたのに、七月十四日から前期試験だといふのである。実は今年から、九月末にやっていた前期試験を七月中に終わらせて、前期をそこで終了することに変わったのである。

B雄たちは、がく然としている。A子やB雄のような学生たちは多い。彼らに待ちに待った夏休みが巡ってきた。(N)

このように各大学で軌道修正の方向を探ってはいらぬものの、三、四年で三、五、四、五時限はつきりした将来像を見極めると、他大学と比べさほど多くはない。ところが、広

「しかも読み書き中心のため卒業してから実用にも役立つはず、そうかと言って読解力も大したことはない。要するに中途半端」といったコメントを語学部の教授が口にする。肝心の語学力までうんぬんされるとあっては、やはり根本から考え直さないと、外語大が国際化社会で取り残されるという皮肉な結果に陥る。

さらに困ったことに、外語大生の語学力が落ちたという声が聞かれる。専攻語の授業時間